

**「三菱UFJ」新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアルコース> (毎月分配型)
ブラジルの金融取引税引き上げによる当ファンドへの影響**

追加型投信 / 海外 / 債券

税率変更による直接的な影響はないものの、今後の為替動向には注視が必要。

10月18日、ブラジルのマンテガ財務相は、今月4日に2%から4%に引き上げた債券投資に関する為替取引に適用される金融取引税(IOF)を、更に6%へと引き上げる方針を発表しました。また、海外投資家がデリバティブ取引で預け入れる証拠金(新規証拠金、追加証拠金とも)に係わる為替取引に適用される税率についても、従来の0.38%から6.00%に引き上げるとの発表もありました。

「三菱UFJ」新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアルコース> (毎月分配型) (以下当ファンド)は、主として米ドル建ての新興国債券に投資を行う一方で、米ドルからブラジルリアルへの為替ヘッジを行うにあたって、ノン・デリバブル・フォワード(取引レートと決済レートの差額を、当該通貨を用いず米ドルで決済する先渡し為替取引、以下「NDF」)を活用しています。今回の税率変更の影響に関して、当ファンドがブラジルリアル建ての債券への投資を行っていないことや、NDF取引自体が今回の規制の及ばないオフショア取引(運用・調達とも非居住者が行う取引)であるため、取引上での直接的な税負担はありません。

ただし、ブラジルの税制を用いた為替政策の不透明感が高まる中、投資家が取引を控えるなどの要因から引き起こる流動性の低下等によりNDF取引のコストが上昇する可能性があります。その場合、NDF取引の価格から理論上計算される為替ヘッジプレミアム/コストも取引コスト上昇を反映して大きく変動する可能性があると考えます。

また、ファンドの基準価額は、為替ヘッジプレミアム/コストだけでなく、為替相場(ブラジルリアルの対円レート)の変動等の影響も受けます。今般のブラジル当局による一連の措置は、投機的な短期資金の流入による急激なリアル高を抑制することを主眼としています。その影響を受けてリアル安となった場合は、ファンドの基準価額の下落要因となります。

ただし、ブラジル当局の目的はあくまで急激な資金流入が引き起こす悪影響を回避することであり、海外からの長期的な投資資金を締め出す意図はありません。よって、同国の好調なファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)や高金利を背景とした海外投資家からの資金流入は継続すると見られ、ブラジルリアルの下落傾向が続くとは想定しておりません。

今月の22日から23日にかけてG20(主要20カ国)財務相・中央銀行総裁会議、来月の11日から12日にかけてG20首脳会議が開催されるため、そうした場での動きを含めた今後のブラジル当局の姿勢を注視する必要があります。

本見通しなしいし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ

ファンドの特色

- ・三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズは、以下10本のファンドで構成される投資信託です。
 - <円コース>(毎月分配型)
 - <米ドルコース>(毎月分配型)
 - <ユーロコース>(毎月分配型)
 - <豪ドルコース>(毎月分配型)
 - <ブラジルリアルコース>(毎月分配型)
 - <南アフリカランドコース>(毎月分配型)
 - <トルコリラコース>(毎月分配型)
 - <中国元コース>(毎月分配型)
 - <インドネシアルピアコース>(毎月分配型)
 - <マネーボールファンド>
- ・各ファンド(マネーボールファンドを除く)は、主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興経済国の国債や政府機関債等を実質的な投資を行い、高い利子収入の獲得と中長期的な信託財産の成長をめざします。また、円建国内証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンドへの投資も行います。(ファンド・オブ・ファンズ形式)
- ・マネーボールファンドは、マネー・マーケット・マザーファンドを通じて、わが国の短期公社債等を中心に投資し、利子等収益の確保をめざします。
- ・為替変動リスクの異なる9本のファンドと「マネーボールファンド」があり、各ファンド間でスイッチングが可能です。
- ・各ファンド(マネーボールファンドを除く)が投資を行う外国投資信託においては、主に米ドル建ての新興国債券に投資を行いますが、米ドルに対し各ファンドの対象通貨で為替ヘッジを行うため、基準価額は各ファンドの対象通貨の為替変動の影響を受けます。なお、円コース(毎月分配型)では、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
- ・各ファンド(マネーボールファンドを除く)は、原則として毎月20日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行います。
- ・マネーボールファンドを除く各ファンドにおいて、投資信託証券への運用の指図に関する権限は、ピムコジャパンリミテッドに委託します。

商品概要

- 設定日 : 2009年4月28日
 <中国元コース>(毎月分配型)、<インドネシアルピアコース>(毎月分配型)の設定日は2010年5月6日
- 決算日 : 原則として、各ファンド(マネーボールファンドを除く)は毎月20日(休業日の場合は翌営業日)、
 マネーボールファンドは毎年4・10月の各20日(休業日の場合は翌営業日)
 <中国元コース>(毎月分配型)、<インドネシアルピアコース>(毎月分配型)の初回決算日は、2010年7月20日
- 信託期間 : 2014年4月21日まで
 ただし、各ファンドの残存口数が10億口を下回った場合または各ファンドの残存口数の合計が50億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了することがあります。
- ベンチマーク : 規定してありません。
- お買付け申込み・中途換金 : 原則として、いつでもお買付け申込み、換金のお申込みができます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行の休業日に該当する日については、お買付け・中途換金のお申込みができません(マネーボールファンドを除く)。
- 申込価額 : 申込受付日の翌営業日の基準価額
 (注) マネーボールファンドへの申込みは、スイッチングの場合に限ります。

【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

- 申込時に直接ご負担いただく費用
- 申込手数料 : 申込価額×3.15%(税抜3%)を上限として販売会社が定める手数料率
 (注) マネーボールファンドには申込手数料はかかりません。
- 換金時に直接ご負担いただく費用
- 信託財産留保額 : なし
- 保有期間中に間接的にご負担いただく費用
- 信託報酬 : <各ファンド(マネーボールファンドを除く)>純資産総額に対して、年率1.596%(税抜1.52%)
 ファンドが投資対象とする投資信託証券では信託報酬はかかりませんので、受益者が負担する実質的な信託報酬は上記と同じです。
 <マネーボールファンド>純資産総額に対して、年率0.5775%～0.0105%(税抜0.55%～0.01%)
 金利水準に応じて適用される率が異なります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- その他費用(*) : 売買委託手数料、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等
 (*)「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。
- なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
 (課税関係) 個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。
 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
 当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

【お申込不可日について(マネーボールファンドを除く)】2010年の該当日は1月18日、2月15日、4月2日、5月31日、7月5日、9月6日、11月11日、11月25日、12月24日です。なお、休業日は変更される場合があります。

三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ

当資料のご利用にあたっての注意事項等

「各ファンド(「マネープールファンド」を除きます。)」

各ファンドは、主に公社債を実質的な投資対象としますので、金利変動により組入公社債の価格が下落すること、組入公社債の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入公社債の価格が下落すること等で各ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、実質的に外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。各ファンドの主な投資リスクとして、組入公社債の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク等があります。

「マネープールファンド」

ファンドは、主に公社債を実質的な投資対象としますので、金利変動により組入公社債の価格が下落すること、組入公社債の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入公社債の価格が下落すること等でファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの主な投資リスクとして、組入公社債の価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク等があります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入していません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

設定・運用 ...三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 (社)投資信託協会
 (社)日本証券投資顧問業協会

<お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034(毎営業日の9:00~17:00)
 <オフィシャルサイト> <http://www.am.mufg.jp/>
 基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
 (*メール配信対象外ファンドもあります。)



三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

「各ファンド(「マネーボールファンド」を除きます。)」

<p style="text-align: center;">市場リスク</p>	<p>(価格変動リスク) 各ファンドは、公社債を実質的な主要投資対象としており、公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、各ファンドはその影響を受け公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>(為替変動リスク) 「円コース(毎月分配型)」 実質的な主要投資対象である海外の公社債は主に米ドル建て資産ですが、当ファンドが投資する外国投資信託において、米ドル売り、円買いの為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図ります。しかし、為替ヘッジにより、保有通貨の為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。そのため、為替相場の変動によっては、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>なお、為替ヘッジを行う場合で円金利が米ドル金利より低いときには、これらの金利差相当分がヘッジコストとなります。</p> <p>「米ドルコース(毎月分配型)」 実質的な主要投資対象である海外の公社債は主に米ドル建て資産ですが、当ファンドが投資する外国投資信託において、為替ヘッジを行わないため米ドルの対円での為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が米ドルに対して円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>「ユーロコース(毎月分配型)」/「豪ドルコース(毎月分配型)」/「ブラジルリアルコース(毎月分配型)」/「南アフリカランドコース(毎月分配型)」/「トルコリラコース(毎月分配型)」/「中国元コース(毎月分配型)」/「インドネシアピアコース(毎月分配型)」 実質的な主要投資対象である海外の公社債は主に米ドル建て資産ですが、各ファンドが投資する外国投資信託において、米ドル売り、各ファンドの対象通貨買いの為替ヘッジを行うため、当該通貨の対円での為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が当該通貨に対して円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>なお、為替ヘッジを行う場合で当該通貨の金利が米ドル金利より低いときには、これらの金利差相当分がヘッジコストとなります。</p> <p>為替取引に関する規制がある場合など、通貨によっては、取引量が少なく需給動向等の影響を受けやすいため、市場で取引もしくは公表されている金利と大きく乖離した金利水準をもとに取引されることがあります。このため、当該通貨の金利が米ドルより高いときであっても、ヘッジコストが生じる場合があります。</p>
<p style="text-align: center;">信用リスク</p>	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。各ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>



三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

<p>流動性リスク</p>	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、各ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>カントリーリスク</p>	<p>新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、市場・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込む可能性が高まる場合があります。</p>
<p>留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。 ・各ファンドは、原則として毎期収益分配を行う方針ですが、毎期一定水準の収益分配金の支払いを保証するものではなく、収益分配金額は運用実績に応じて変動します。なお、分配対象収益が少額の場合には、収益分配を行わないことがあります。

三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ
当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

「マネーボールファンド」

市場リスク	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、公社債を実質的な主要投資対象としており、公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
信用リスク	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
流動性リスク	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。 ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。

